



人の近くでたくましく生きる ムクドリ

夏の夕暮れ時、小鳥の大群が空を通過していきます。ねぐらに帰るムクドリの群れです。時には数百羽が電線や樹木にずらりと止まり、ジェージェーと騒々しく鳴き交わしています。

○最もよく見掛ける鳥

ムクドリはスズメより2回りほど大きい鳥で、体の色は全体に黒っぽく、足とくちばしはオレンジ色で、飛んだときに白い腰が目立ちます。市内では全域で1年中普通に見られます。

○巣穴をめぐる争い

夏から冬にかけては群れで暮らすムクドリですが、子育ての時期はつがいです。巣は太い木の幹に空いた「うろ」や、建物のすき間、戸袋などに作ります。巣作りに適した木の「うろ」は限られているので、何つがいものムクドリが1つの「うろ」をめぐる争い、大騒ぎしていることがあります。近ごろは建物のすき間も少なく住宅難のようです。

○人間の暮らしを利用

ムクドリは田畑や芝生などの土の中に住むミミズや昆虫など



を食べます。地上に降りて歩きながら、くちばしで上手に掘り出します。果実も好物で、庭の力キの実が甘くなると群れでやってきてきれいに食べてしまします。住まいも餌も、人間をうまく利用しています。

○千羽に一羽毒がある……？

江戸時代初期の土佐藩の家老で学者の野中兼山は、領民に「ムクドリは千羽に一羽毒がある」と言ったそうです。田畑の害虫を食べるムクドリは益鳥なので、保護しようとしたのです。しかし、近年は数が増え過ぎて果樹などを食い荒らす害が目立つようになり、狩猟鳥に加えられています。